

脱温暖化社会づくりに向けた懇話会からの提案

(素案)

1 京都から知恵と文化を発信し続ける

- ・ 京都に蓄積されてきた「自然との共生」という生き方や考え方、価値観や慣習を今一度掘り起こし、京都から世界に発信し続ける。

2 ライフスタイルの転換を進める

- ・ 「おかげさま、もったいない、はらはちぶんめ」といった「やまとことば」の意味を今一度伝え、現代の暮らし方を見直してみる。
- ・ 経済発展ばかりが価値ではなく、環境に良い暮らし方やゆとりのある生き方に価値が見出される社会・経済のしくみづくりを進めていく。
- ・ 車型社会中心の都市計画のあり方を見直し、歩いて暮らせるまちづくりを進める。

3 京都の革新的技術を温暖化対策に生かす

- ・ 太陽光発電や森林バイオマス発電など、地域の資源を生かした再生可能エネルギーの飛躍的普及を図る。
- ・ 電気自動車など次世代自動車への転換を図る。
- ・ 京都発のCO₂削減技術や省エネ技術を、先進各国はもとより発展途上国に向けて技術移転を図る。

4 次代を担う子どもたちに伝える

- ・ 人間は自然とともにしか生きられないことをしっかりと伝える。
- ・ 昆虫や植物など身近な自然にふれながら、五感を使って自然に親しむことを体験させる。
- ・ 田んぼや畑で自分たちが食べるものを作り、自然のしくみと環境の大切さを体験を通じて伝える。